



おくもと てつや
澳本 哲也 議員

温暖化対策

将来見据えた取り組みは 情報共有を密に状況を注視

一般質問 町政を 問う!!

問 農業、漁業において、温暖化による影響は、どれほど町は理解しているか。

また、これまでの取組はどうなっているか。

答 今 海洋森林課長

農業関係における温暖化の影響は、昨年度農作物における高温障害による育成不良、病害虫被害が発生している。稲作栽培では、もみに米が入っていない不稔や、米にひびが入る胴割れなどが発生している。柑橘類を中心に、害虫であるカメムシの大量発生による果実の落果や、奇形果実など生育不良が発生。キュウリ、ニラなど施設園芸では、根張りの不足、株の育成不良があり、収量や品質の低下につながっている。漁業関係では、平均海水温の上昇がある。中長期に水温上昇に伴う魚種の変化が見られ、定置網漁業などに水揚げされる魚種にも表れている。沿

岸域における藻場の育成にも影響があり、海藻の枯れや天敵であるウニの繁殖に繋がっている。

足摺より離岸していた黒潮本流も一定接岸しつつあり、今後も海況の変化を引き続き情報共有を密にし、状況を注視して行く。

問 これからの温暖化対策の課題と、行政に出来る取り組みは何か。

ラッキョウの種芋が温暖化により、腐りや病害虫の影響で不足している。掘った種芋を冷蔵保管する場所の確保と、利用料の補助はできないか。

答 斉藤 農業振興課長

記録的な豪雨や、高温による作物の収量の減少、品質の低下、漁獲量の減少が懸念される。現在、本町でも取り組んでいる脱炭素、温暖化対策を一層推進することが大切である。生産関係では、高い生

何っていききたい。



ラッキョウの収穫が終わり、種芋を掘る時期が来る（6月16日）